

結核の現状



日本の結核の現状

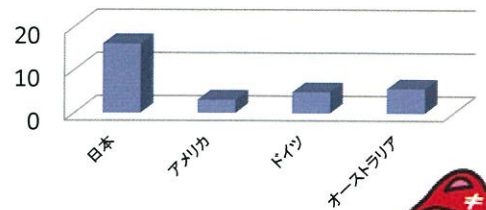
日本では、約2万人近くの方が新たに結核に罹り、約2千人の方が結核で亡くなっています。また、世界の中で日本は依然として中まん延国であり、先進欧米諸国と比較すると30年程度の遅れがあり、日本において結核が公衆衛生上の問題でなくなるまでには、まだ半世紀以上かかると考えられています。

日本の新規登録者及び死亡者数(平成26年)

新登録患者数 <small>(新たに結核と診断され登録された人数)</small> 岐阜 342人 (全国 19,615人)	罹患率 岐阜 16.8 <ワースト12位> (全国 15.4)
結核死亡数 岐阜 32人 (全国 2,099人)	死亡率 岐阜 1.6 <ワースト23位> (全国 1.7)

(率は人口10万対)

欧米諸国との罹患率の比較(2013年)



→「平成26年度結核登録者情報調査年報集計結果(概況)」<厚生労働省>

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku>

岐阜県の結核の現状

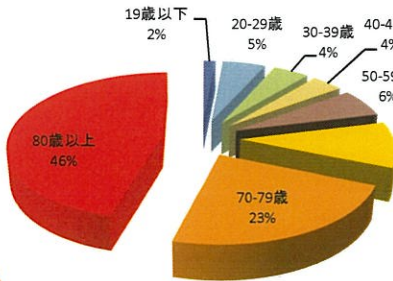


岐阜県の結核の現状(平成26年)

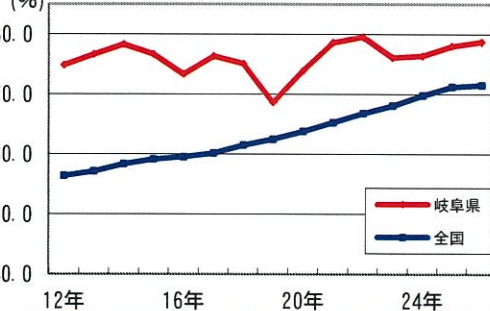
新たに結核として登録される人数は概ね減少傾向にあるものの、岐阜県の数値は全国と比較すると高く(10万人当たり全国15.4人、岐阜16.8人。全国ワースト12位)、高齢者の割合は依然として増加傾向にあります。(60歳以上が78.7%を占める。)

なお、県保健所管内別にみると改善傾向にあるものの、岐阜市や東濃、関地域は県平均を概ね上回っています。

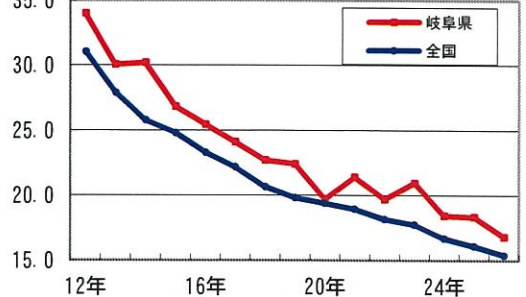
年齢層別新規登録者数



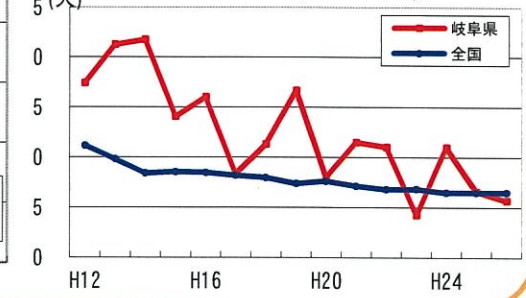
60歳以上構成比の推移



罹患率の推移(人口10万対)



死亡率の推移(人口10万対)



→「岐阜県の結核の状況」<岐阜県>

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/11223/kekkaku-jokyo.html>

世界の結核の現状～アジアとアフリカに多い結核～

世界に目を向けると、2014年には、960万人が新たに結核を発病し、約150万人が結核で命を落としています。そのほとんどが、アジアとアフリカを中心とした発展途上国に集中しています。未だに世界では、結核が最大の感染症として働き盛りの世代を直撃し、世界的な対策なしには自国の結核制圧も達成できない状況下にあります。また、結核新規患者の約12%に当たる推定110万人がエイズウイルス(HIV)感染者で、結核とHIVの二重感染は依然として深刻な状況となっています。

結核予防会は、WHO・ストップ結核パートナーシップ等に積極的に参加し、結核対策に貢献する研究を推進し、「世界の結核センター」としての役割を果たしていくべきであると考えています。

→「ストップ結核パートナーシップ」 (<http://www.stoptb.jp/>)